

## 第20回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時: 2024年 10月30日(水) 10:00~12:00

2. 場所: Microsoft Teams会議/TKPガーデンシティ御茶ノ水 カンファレンスルーム2D

### 3. 出席者

(1) 委員: 永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、佐宗委員、津田委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員、御手洗委員

(2) JAXA/事務局: 松浦真弓、小川志保、白川正輝、芝大、加藤充康、遠藤祐希子、小林裕希、中西雄太 他

### 4. 議事要旨

本委員会で今後、検討・討議すべき項目とスケジュール及び、きぼう利用プラットフォーム(以下”利用PF”という)中間評価計画案等について、各委員の専門性の観点から議論を深めて頂いた。本結果を踏まえJAXAは各作業を進めることとした。主な議論、ご意見は以下のとおり。

#### (1)ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

国内外の低軌道活動の動向について報告した。ポストISSにおける商業利用向けクルータイムの見込みについて質問があり、科学利用は自動化・効率化により更なる圧縮を行ったうえで現状同程度の利用を目指し、商業利用も同程度の利用需要になることを期待している旨説明。利用PFの次のステップに向けた取組みとして、成長が期待される分野を取り上げる事が最優先とのご意見があった。タンパク質結晶は、クライオ電顕やAlphaFold等の急速な技術発展を踏まえるべき、燃焼分野は、長時間の実験環境が必要な時定数の長い現象を見極めること、民間が参入し易いテーマを広げることが重要等のご指摘があった。JAXA保有知財、経験、ノウハウの民間への移管方法の質問があり、数年前から実施しているOJTによる民間移管の取組みを紹介した。米国企業との契約に関し、提携する日本企業との契約によるサービス調達を想定していること、宇宙戦略基金による日本の民間企業の技術力向上が期待され、JAXAが支援をする旨の説明をした。

#### (2)きぼう利用推進有識者委員会で検討・討議すべき項目とそのスケジュールについて(討議)

2027年頃実施する「きぼう」利用戦略改訂において、ポストISSへの移管計画・戦略を記載予定である。そこへフィードバックするものとして、科学利用/商業活動利用の実行評価の計画についてご意見を伺った。現ISSにおいて、商業活動利用向けの試行的枠組みを作るべき、また、2030年以降を含めた中長期において、低軌道利用の位置付け明確化、国民の賛同を得るには、科学技術だけではなく、社会活動利用の区分を含め、ソーシャルとしての宇宙空間がどう変わるのか、社会科学系研究者も巻き込んだ議論が重要とのご意見があった。「きぼう」の成果として子供対象の教育も検討すべき、日本のポストISSの”売り”の明確化、商業利用における金額的な目標設定の検討、高機能日本モジュールとポストISSへの成果継承の必要性等のご意見があった。

#### (3)きぼう利用プラットフォームの中間評価実施計画案について(討議)

ポストISSへより良い形で利用を継承するための活動として、利用PFの成果や取組状況を中間的に取り纏め評価を行う利用PF中間評価実施計画案(目的、実施時期、対象利用PF、評価体制等)を説明した。評価目的を鑑み、学術的価値と社会に対する価値を分け「きぼう」の成果を対外的に強くアピールすることを意識して評価すべき、最新の研究動向も踏まえPF利用の今後の在り方を検討することも重要とのご意見があった。評価対象は船内の他、成果創出があり日本の独自性がある船外も含め、船外は事業者移管済みである点を踏まえて総括的な評価等を検討すること、また、上手く行かなかった事例も含めた実施数、商品販売や国際特許等を含む成果一覧は評価に有用とのご意見があった。

#### (4)「きぼう」利用テーマ募集状況(報告)

船内・船外利用のテーマ募集状況を報告した。応募件数の公開状況についてご質問があり、募集毎に応募・採択件数を公表している旨を説明した。

以上